



2015

第2回福岡県  
木造・木質化  
建 築 賞



## ご挨拶

森林は、木材の供給はもとより豊かな水と空気を育み、土砂災害を防止するなど多面的機能を有しており、私たちの安全・安心な暮らしに重要な役割を果たしています。木材の利用を進め、林業の振興を図ることは、再生可能な地球環境に優しい、地域の貴重な資源である木材の「植える」、「育てる」、「使う」という世代サイクルの維持につながります。

このため、県では県有施設や公共土木工事で積極的な木材利用に加え、大川家具業界と連携した県産材を活用した家具の展示会や木造設計に係る講習会の開催などにより、県産材の需要拡大を図っているところで。

さらに、木材利用の普及啓発や県産材の需要拡大をより一層進めるため、昨年度、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を表彰する制度を創設しました。



福岡県知事  
小川 洋

第2回となった今回も、住宅はもとより、公共施設や店舗などさまざまな分野から木材の温かさや木目の美しさを感じさせる優れた建築物が多数応募され、選考委員会の厳正な審査を経て、「福岡県木造・木質化建築賞」が決定されました。これらの受賞建築物は、いずれも木造・木質化建築物のさらなる普及を大きく期待させるものばかりです。

県では、「福岡県農林水産業・農山漁村振興条例」に基づき、県産木材の需要と供給の拡大に必要な施策を講じることとしています。今後も、需要拡大に向けて取り組みをさらに進めてまいりますので、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

選考委員の皆さまのご尽力に感謝申し上げますとともに、受賞者ならびに応募いただいた皆さまの、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

## 総評

国土保全や水源涵養など森林の多面的機能の低下が大いに懸念される事態となっています。このような厳しい状況を克服するためには、木を使って、森を育て、林業の再生を図ることが急務です。平成22年に施行された「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」は、こうした状況を踏まえ、木造率が低く今後の需要が期待できる公共建築物にターゲットを絞って、国が率先して木材利用に取り組むとともに、地方公共団体や民間事業者にも国の方針に即して主体的な取組を促し、住宅など一般建築物への波及効果を含め、木材全体の需要を拡大することを狙いとした法律です。さらに東京五輪に向けた新国立競技場建設では、昨年夏に日本建築士会連合会会長が木造化を提言し、実際にその年末には木質構造の屋根を持つデザインが採用されています。このように公共建築物など中大規模建築の木造・木質化は社会的に認められつつある一方、その割合は全国的に非常に低いものとなっています。

福岡県では県産材の需要拡大を図るため、木造・木質化のモデル的な建築物を表彰しており、今回、第2回福岡県木造・木質化建築賞の受賞建築物が決定しました。建築材料として古来から使われている「木材」は人間と同じ有機物であり、生活空間の中で素晴らしい機能性を発揮することが知られています。一方、有機物であるが故の使い方の難しさがあることも確かです。県産材の建築利用啓発に寄与する優れた木造・木質化建築物を表彰し、建築関係者とともに県民への木材利用の関心が深まり、木の上手な使い方の普及、木材の利用促進につながるものと期待しています。

本年度は木造の部で18点、木質化の部で22点の建築物を選考しました。



福岡県木造・木質化建築賞  
選考委員会  
委員長 藤本 登留

第1次選考は、6名で構成する選考委員会によって平成27年10月16日に書類審査を実施し、協議および投票によって木造の部6点、木質化の部3点、合計9点の建築物を現地審査の対象に選出しました。応募された建築物は、住宅、保育施設、店舗、神社、福祉施設、学校、駅舎と幅広く、いずれも木材の利用にこだわりを持ち、使い方も興味深いものが多くありました。今年も選考委員による投票がばらつき、多くの落選した建築物にも票が入るなど、甲乙付けがたい素晴らしいものばかりでした。

第2次選考となる現地審査は、平成27年12月24日、25日の2日間にかけて実施しました。

福岡県内でも、都市部の保育園や住宅から、比較的過疎地域の学校、保育園、福祉施設まで、いずれの建築物も、建設における様々な制限の中で、地域の特長を活かしたものです。都市部の保育園は、狭い敷地内で既存の樹木をそのまま活かし、その大木を包み込むような建築物で都市の中の自然を感じることができ、立体感を感じさせる部屋の配置は幼児の好奇心をかき立てます。都市部でも昔からあるお寺に併設された会館・住居は伝統工法を活かした化粧性に優れた和風建築で日本人に心の安らぎを与えてくれます。一方、田んぼに囲まれた郊外の広さを活かした平屋の福祉施設は、身体障害者に優しい広い廊下と明確な部屋割りがなされ、壁伝いに歩く障害者は木のぬくもりを手に感じながら安全に過ごすことができます。過疎化が進み統合された小学校は、広い廊下と広い食堂などで化粧的に優れた地域スギ材の壁をふんだんに使用し、学校生活を快適なものにしています。山のふもと的一般住宅は、窓からの景観を活かすことで、心の贅沢を日々の生活の中で味わうことができる建築物です。

今回ご紹介する木造の部、木質化の部の大賞、優秀賞のほか、5点の奨励賞の受賞建築物は、いずれも地域に応じた木づかい建築の見本となる建築物です。この魅力を感じていただき、木造・木質化建築がさらに広まることを願っています。

## 福岡県木造・木質化建築賞

### 【表彰の目的】

県では、平成25年3月に策定した「福岡県森林・林業基本計画」のもと、持続可能な林業経営の確立と、健全な森林づくりに取り組んでいます。

中でも、県産材シェアの拡大を目指して住宅や公共建築物等における木材の利用や、県有施設の木造・木質化を積極的に推進しています。

そのような中、県産材の需要拡大を目指し、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し更なる普及啓発に努めるため本賞を昨年度創設しました。

### 【賞の対象】

県産材の需要拡大を図るため、公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

### 【賞の部門】

○木造の部(大賞・優秀賞)    ○木質化の部(大賞・優秀賞)    ○奨励賞

### 【主な選考基準】

- 国産材を積極的に利用している
- 建築物の木造・木質化に波及効果がある
- 国産材の特徴や良さが活かされている
- 国産材の利用を通じて、豊かな暮らしや社会を実現するもの

### 【選考委員】

役職名	氏名	職名
委員長	藤本 登留	九州大学大学院農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科教授
委員	土師 淳志	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	長谷川 彰	西日本新聞社編集局生活特報部長
委員	今泉 正彦	福岡県農林水産部林業振興課長



# 木造の部 大賞

森のおうち保育園

所在地：福岡市中央区

建築主 社会福祉法人レムニスカート  
理事長 角 たか子  
設計者 株式会社環・設計工房  
取締役 杉本 泰志  
施工者 株式会社中尾工務店  
代表取締役 中尾 良次  
建築物の用途 保育園  
構造・規模(階数) 木造・地上2階







撮影：イクマサトシ

## 設計趣旨

本保育園の教育理念であるシュタイナー教育では木や土など、地球を構成する物質の手触りや重さを大切にすることから、教育環境も極力張りものでない環境を求めた結果、自然物質で構造材をつくることのできる木造に行き着いた。

また、2階に保育室があることから準耐火建築が求められた。燃えしろ設計で構造材を見せる部分と、石膏ボード耐火被覆の上から腰壁を杉板貼りとする内装木質化部分を使い分けた。園庭に面し、強風・豪雨時雨掛かりがあり耐火以外の耐久性も要求される外部廊下まわりを燃えしろ設計の余裕のある断面の柱・梁で構成。一方、保育室等の包まれ感と落ち着き感を求める部屋については、石膏ボードによる自由なかたちの壁・天井と、腰壁木による重心の低い空間とした。

## 講評

高層住居専用地域にありながら従来から存在したクスノキ等を伐採せずにそのまま活かし、これにマッチした木造として大断面スギ丸太をあらわしの柱に使うとともに、床、腰壁などにも木質系にこだわり、幼児に優しい保育園にしている点は評価されます。

一方、その部屋など立体的空間の配置は人工的、効率的とは対照的な曲線的で自然の中の空間を思わせる動線をもち、同園の保育理念に即したユニークさを感じさせます。

準耐火建築が求められましたが、日本林業におけるスギ丸太の大径化に即した燃えしろ設計に対応することや、石膏ボードをうまく利用するなど、無理な木質化を行わない点で、見本となる適材適所の地域材利用建築物です。



# 木質化の部 大賞

嘉麻市立嘉穂小学校

所在地: 嘉麻市

建築主 嘉麻市

設計者 株式会社総合企画設計 福岡支店

施工者 前田建設工業株式会社 九州支店

建築物の用途 市立小学校 校舎

構造・規模(階数) 鉄筋コンクリート造・地上1階







## 設計趣旨

今回、5小学校の統合にあたり、地元説明会やアンケート調査等を実施した中で、嘉麻市は、県平均森林率45%を大きく上回る60%の森林を有し、子供たちが地元の豊かな自然に触れながら学べる場にしたいとの意見が多く出たため、嘉麻市産材のスギを活用した内装木質化を決定した。

子供たちが地域を愛する心を育てる環境を創造することをテーマに、伸びやかにかつ、健康的に過ごせるよう、木(木材)や光、風などの自然を感じる教育環境とした。

施設内部の木質化にあたっては、地元森林組合との協議を重ね、教室などの学習スペースのほかにも、体育館・ランチルーム・図書室・メモリアルホール等、建物全体に嘉麻市産材のスギを可能な限り使用した。また、板の色目の違いを利用したグラデーション化や自然採光を生かすために木製ルーバーの天井も採用した。

## 講 評

同市の5小学校を統合するにあたり、森林率60%の地域資源を教育に役立てたコンセプトと実行力により、児童の教育環境を重視して木質化された学校建築であることは評価されます。地域木材の利用で課題となる木材調達の量的、質的課題を、建設発注2年前から木材の調達を行うことで対応しています。木材の事前調達は発注者側等のリスクを伴いますが、地元の森林組合との協議を重ねるなど地域連携によるリスクの回避は、大規模木質化の見本となる取り組みです。

多くの役物板を利用することは歩留まり低下等の問題も懸念されますが、デザイン的にスギの極端な色目の違いを活かしたグラデーションを壁に応用し、校舎の質的印象評価を上げています。校舎の質的向上は児童や教員、保護者からの愛着を生み、ものを大切にする教育に役立っています。スギの温かみのある空間は児童の情緒の安定にも寄与し、問題行動の減少も見られるなど教員の評価も好評のようです。



撮影：河野博之

## 木造の部 優秀賞

妙泉寺門徒会館・庫裏

所在地：福岡市城南区

建築主 妙泉寺 木村 眞昭  
設計者 創新設計 上塘 洋一  
施工者 株式会社志田建設  
代表取締役 志田 隆廣  
建築物の用途 会館・住宅  
構造・規模(階数) 木造・地上2階

### 設計趣旨

本建物は、お寺の門徒会館と庫裏の2つの用途からなる複合建築である。施主は、お寺は法(仏法)と同時に日本文化を後世に伝えていく責務があると強く感じている。そこで伝統的な日本建築である木造の特性を最大限に生かすために、宮大工による伝統的な大工技術である仕口、継手で施工し、壁は左官の技術を生かした漆喰と大津壁で仕上げている。

また、内部は用途に応じて、日本住宅建築の様式である書院造、数寄屋造、民家造によりデザインしている。これらの異なる3つの様式の調和をはかっているのが、共通材料である木(杉)と漆喰であり、それぞれの空間が違和感なくまとまっている。外部は、屋根は和瓦一文字葺、軒先と庇はチタンの平葺である。外壁は大壁として新築築壁で仕上げ、全体は新築数寄屋風にまとめている。

### 講評

お寺に併設された会館と住居からなる木造和風建築物です。お寺に即した伝統木造建築で、板材だけでなく構造材にも天然乾燥材が使われています。これにより天井や壁板など、最高級のスギ板を使って心材、辺材のコントラストをうまく活かすことができています。また書院の化粧木材と漆喰の内装は清楚な美しさを感じられ、落ち着いた生活の場にもなっています。宮大工による丁寧な木づかいは、木の性質を最大限に活かした技術であることを再認識させられます。





## 木質化の部 優秀賞

八女市子育て支援総合施設  
(やめっこ未来館)

所在地:八女市

建築主 八女市  
設計者 株式会社建築企画コム・フォレスト  
代表取締役 林田 俊二  
施工者 東急建設株式会社 九州支店  
建築物の用途 子育て支援センター・保育所  
構造・規模(階数) 鉄筋コンクリート造・地上2階

### 設計趣旨

園庭を南側に配置することで大きく開いた空間を確保でき、園庭と駐車場のエリアを連結させることにより、周辺の豊かな環境を取り込みながら敷地を大きく広く見えるように使った。元気な子供たちには、思いっきり遊び回ってもらえるよう出来るだけ開放感のある園庭とした。また、囲われていないことで、施設に訪れたすべての人々が子供たちの元気な姿を見ることが出来る。

園庭をやさしく包むようなラウンドした園舎は、保護者だけでなく、保育士、地域の方々ともに未来を担う子供たちに手を添えてあげる気持ちや、北風から手をかざして守ってあげる気持ちを表現している。

### 講評

保育の機能と子育ての総合的な支援を行う機能を備えた鉄筋コンクリート造の施設を内装木質化したものです。広い園庭と同様、園内のエントランスやホールも開放的で、そこに使われたヒノキ床材は幼児に優しい暖かさを感じさせます。多くのヒノキ材の調達には地域の木材組合の協力を得て、デザイン的にもバランスの取れた木質の割合となっています。メンテナンスも考えた木づかいは、無理をしない木造・木質化にとって大切なポイントであり、この点でも一つの手本となる建築物です。



# 奨励賞

(順不同)



## 筑紫保育園 分園

撮影:河野博之

所在地:太宰府市

建築主 社会福祉法人 八紘福祉会 筑紫保育園  
理事長 内田 京子

設計者 内田貴久建築設計事務所 内田 貴久

施工者 ナガタ建設株式会社 代表取締役 永田 厳悟

建築物の用途 保育園

構造・規模(階数) 木造・地上1階

### 設計趣旨

将来的に様々な用途(遊戯室や地域子育て支援施設など)に改修可能なように、木造による9mスパンの無柱空間で成立させた。構造体や下地材を内部に表して使用することで、内装のすべてを木質系材料で構成していながら、コストパフォーマンスの高い建物にした。建物外観は折板の山形部分と耐久壁を利用した小さな家型が5つ並んだような子どもらしい外観を目指した。

## 風ひかり作業所

所在地:福岡市早良区

建築主 社会福祉法人 福岡ひかり福祉会

設計者 風土計画一級建築士事務所  
大坪 克也

施工者 株式会社山川工務店

建築物の用途 社会福祉施設(障害者就労支援作業所)

構造・規模(階数) 木造・地上1階

### 設計趣旨

障がい者の就労支援施設設計に当たり、安全性と室内環境ならびに精神面への影響を意識した。仲間(利用者)の転倒や衝突に対する怪我の防止や緩和、空気の調湿性や断熱性、防音性に加え、視覚や嗅覚、触覚を通して得られる精神面の安定効果が期待される。また、建物は地域住民へも開放されるため、木をふんだんに用いた居心地の良い空間づくりを目指した。







撮影：池田真一

## 海物山物 所在地：福岡市博多区

建築主 株式会社平山 代表取締役 中山 由美  
 設計者 株式会社栄和設計コンサルタント  
 代表取締役 久保山 巖  
 施工者 ハウジングキムラ 木村 隆美  
 建築物の用途 飲食店  
 構造・規模(階数) 木造・地上1階

### 設計趣旨

中高層の建築物に囲まれている環境の中、あえて木造平屋建店舗にすることで非日常的な空間とした。外部からも店内の様子が窺えるように、ガラスを多用した開放的な外観とした。内装は、建物の高さを抑えつつ天井高を確保するために、八女産材の構造材あらゆる仕上げとし、シンプルかつ活気のある空間とした。木材は、林産地まで実際に出向き、必要な材を現地調達した。

## 耳納の家 所在地：久留米市

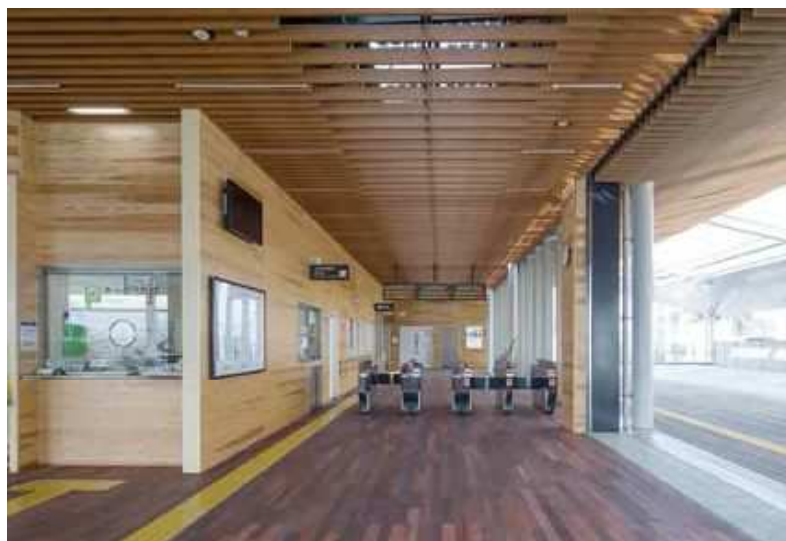
建築主 個人  
 設計者 ろく設計室 一級建築士事務所  
 平田 大和  
 施工者 高尾工務店有限会社  
 代表取締役 高尾 昭徳  
 建築物の用途 住宅  
 構造・規模(階数) 木造・地上2階

### 設計趣旨

西面は騒音や西陽から住まい手を守り、東南は開放性を持たせることによって耳納連山の大自然をより多く感じられるようにした。木外壁はサーモウッドという熱処理を施した製品を使用しており、メンテナンスフリーとなっている。外壁に木材を使用することで閉じた固い雰囲気とを和らげ、時の経過による自然の変化を感じることができるようにした。



撮影：針金洋介



## 日豊本線 城野駅

所在地：北九州市小倉南区

建築主 九州旅客鉄道株式会社  
 建設工事事務部 部長 西川 佳祐  
 設計者 JR九州コンサルタンツ株式会社  
 一級建築士事務所 平原 公孝  
 施工者 九鉄工業株式会社  
 建築物の用途 駅舎  
 構造・規模(階数) 鉄骨造・地上2階

### 設計趣旨

“木の温もり”を感じることができる木材を採用することで、周辺住民が愛着を持てるデザインになるようにした。今回の駅周辺整備事業に伴い、駅舎改築、自由通路新設及びペDESTリアンデッキ新設が行われ、3つを一体とすることで「まち」の玄関口になるように計画した。また、省エネ・省資源・低炭素に配慮し、太陽光発電システムの設置、Low-E複層ガラスやLEDの使用等、建築・設備的にも省エネ化を図り、エコステーションを目指した。





## 2015 第2回福岡県木造・木質化建築賞

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係

TEL092-643-3536 FAX092-643-3541

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/mokuzou2kettei.html>

この冊子の用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。